

一ノ蔵型第六次産業の実現に向けて (株式会社一ノ蔵)

<法人の概要>

所在地：宮城県大崎市

設立：昭和48年1月

資本金：15,000万円 売上高：304,802万円（平成25年8月から平成26年7年）
（うち農業：580万円、うち農業関連事業：211万円）

役員：10名（うち農作業従事1名）

従業員数：170名、うち農業従事者4名

経営面積：7.5ha 営農作物：稲（酒米）、そば、大豆、野菜類

農業開始時期：平成16年12月



農社ほ場“ふゆみずたんぼ”



極力農業に頼らず機械で除草

<農業参入に至った経緯・動機>

弊社の造りに於いて、有機米を使用し酒造りをした場合、醪の活性や麴造りに良いということから有機米による酒造りの可能性を感じていた。

平成7年、旧松山町（現大崎市）・旧宮城松山農業協同組合（現JAみどりの）・篤農家等とともに“松山町酒米研究会”を立ち上げ、環境保全型農業による酒米契約栽培を積極的に推進し、リスクの把握と栽培技術を習得還元し、地域主産業である農業を守ることを目的に農業へ参入した。

<農業参入することを決めてから営農開始まで>

当時、農地法では一般企業が農業へ参入できなかったが、自社で酒米栽培ができないか地域自治体へ相談し、構造改革特区により松山町“醸華邑構想水田農業活性化特区”として国に特区認定されたことにより特区が認証され、平成16年12月に農業へ参入、自社での酒米栽培を開始した。

<営農開始から現在まで>

環境にやさしい農業のリスク緩和及びノウハウ蓄積のために、古川農業試験場や美里農業改良普及センター、NPO法人環境保全米ネットワーク等の指導を受けながら、酒米栽培試験等を毎年実施。蓄積したデータを関連機関と考察し、環境にやさしい栽培方法による酒米栽培の確立をめざし、酒米研究会を始めとする農家の方に情報提供していく予定。

一ノ蔵は、人と自然と伝統を大切にし、醸造発酵の技術を活用して安全で豊かな生活を提案し、地域に貢献することこそ企業の使命である、という一ノ蔵の経営理念から農業との関わりを通じて地域に貢献をすることを目的に営農を行っている。

<今後の農業経営の展開方向>

一ノ蔵は環境保全型農業を推進し価値の高い農業経営を目指している。

平成26年には自社内に加工場を整備し、現在加工品の商品開発を推進している。自社栽培野菜や地場産野菜を活用し蔵元がお勧めするオンリーワンの酒の肴を皆様にご提供することを目指している。

<今後農業に参入しようとしている法人へのアドバイス>

一ノ蔵では農業参入によってマーケティングや商品開発の分野でも農業の視点に立ったものの考え方ができるようになり、社員全員が6次産業を意識して業務に取り組むことができている。また、社員は年一回農業体験を義務付けられており、農作業を通じた意見交換により会社の風通しを良くすることにも繋がっている。

農業経営を採算ベースにのせるまでには時間がかかると思うが、農業参入による多くのメリットを活用し、企業と地域のさらなる発展につなげていただければと考えている。



加工場の様子



ダイコン粕からし漬けの加工試験